

鳳寿園だより



平成 29 年 1 月 1 日発行

介護老人福祉施設・短期入所生活介護
通所介護・訪問介護・訪問入浴介護
居宅介護支援・在宅介護支援センター
〒871-0821 築上郡吉富町大字幸子 803 番地の 1
tel 0979-23-6111

吉富鳳寿園開設 20 周年

地域ふれあい感謝祭のお礼

去る平成 28 年 10 月 16 日、当園では地域ふれあい感謝祭を開催いたしました。当日の早朝は天候が悪く心配をしておりましたが、おかげさまで開催中は天候に恵まれ 450 名を超える方々にご来園いただき、盛大に執り行うことができました。混雑に紛れ行き届かない点多々あったかと存じますが、何卒お許しください。

つきましては、この場をお借りし皆様方にお礼を申し上げますとともに、今後も吉富鳳寿園をよろしくお願ひします。



施設長 新年の挨拶(平成二十九年)

明けましておめでとうございます。旧年中はご利用者、ご家族をはじめ、地域住民の皆様、行政関係者の方々より温かいご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございました。また、開設二十周年記念式典、地域ふれあい感謝祭においてはおかげさまでご来園いただき、重ねて御礼申し上げます。今年も大過なく新年を迎えることができましたことを心より感謝いたします。

さて、政府はプライマリバランスの黒字化(二〇二〇年度)を国際公約に掲げておりますが、消費税率の引き上げが延期されたこともあり、実現が危ぶまれています。財務省は、今年度予算における社会保障費の伸びを五千億円以内に抑え、医療・介護の利用者負担の見直しや軽度者に対する生活援助(訪問介護)を給付対象外にすることなどを求めています。また、安倍首相は、昨年十一月に開催された未来投資会議において、人口知能やデータを活用し、健康寿命を延伸させるとともに自立支援をより重視し、要介護度が改善すればインセンティブを与えたと発言しており、次期介護報酬改定に影響を及ぼすものと思われます。加えて厚労省は徹底した「見える化」を進め、地域格差が問題視されている医療費や介護費、要介護認定率の是正に努めたいとしています。

厚労省が推進してきた地域包括ケアについては、地域再生のキーワードとして徐々に浸透しており、福祉に関心が低い政治家でさえ「地域包括ケアの充実」と言えばさまになるような状況です。そもそも地域包括ケアとは、住み慣れた地域で医療・介護・予防と住まい・生活支援が包括的に提供される体制を国ベースではなく自治体ごとに構築することですが、高齢者が急増する都市部と人口自体が減少傾向にある地方では状況が異なりますし、それぞれの地域の特性もあるだけに、地域行政の福祉力が問われます。また、自助・互助・共助・公助を理念としていますが、軽度者に対しては自助と互助を主とする一方で、共助や公助に係る費用を抑制する効果が期待されています。

地域共生社会や介護予防の重要性を説くとともに負担増を示すことで、早い段階での住民参加を促すことは政策的にも正しく、自立支援は財政面だけでなく、ご利用者やご家族にとっても有益であり、健康寿命の延伸は誰もが望むことでしょう。

しかしながら、ありのままを受け入れることは、私ども福祉従事者の使命の一つであり、要介護状態となるのがあたかも社会悪とされるような風潮は避けなければなりません。

また、平成二十七年介護保険制度改正により、一定以上の所得者は二割負担となり、介護保険施設等における食費、居住費の補足給付も厳格化されました。給付と負担のバランスを図ることは重要ですが、選挙前の響きの良い言葉ではなく、時にマイナスとなりかねない政策を国民に示し、理解を求める勇氣ある政治が望まれます。特に第三次ベビーブームが到来しないまま団塊ジュニアが高齢者となる二〇四〇年問題は一層深刻です。私たちは子や孫の将来を見据え、今一度、給付と負担及び地域共生社会の実現について、真剣に考えなければなりません。

一方、公正取引委員会が特養への参入規制の緩和と社会福祉法人への課税について言及するなど、依然、社会福祉法人に対するイコールフィッティング論は燻っており、福祉を聖域化するわけではないのですが、格差社会と言われる今日において、福祉は正に社会のセーフティネットです。鳴り物入りで介護業界に進出し、全国展開を図ったコムスンなどの営利企業がその後どうなったのかはご存知のとおりであり、単に市場原理を導入すれば良いというものではないと思います。

しかしながら、以前、厚労省職員から「今や社会福祉法人らしからぬ社会福祉法人も存在する」と指摘されたように、社会福祉法人の存在意義が強く問われており、一般の社会福祉法人制度改革を踏まえ、私どもも襟を正していかなければなりません。

つきましては、引き続き、ご利用者、ご家族お一人一人に分け隔てなく接し、信頼関係の構築に努めて参る所存でございますので、本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



特別養護老人ホーム吉富鳳寿園

施設長 三笠直樹

当園のさらに詳しい情報はこちら！

社会福祉法人 緑風会 公式ホームページ <http://ryokuhu-k.jp/>

ご意見等ございましたら、ホームページの"お問い合わせ"からお申し付けください。



幸手上区の秋祭り



さて、今年もこの季節がやってまいりました。9月・10月と吉富町では毎年この時期に秋の実りへの感謝として神輿行列が町内を周り、当園でも舞を披露して下さります。

お神楽が始まると利用者も職員も釘付けです。鬼が園庭を駆け回り利用者一人一人と握手をし、鬼の棒で頭を撫でると皆様から笑顔がこぼれました。暴れる鬼はやがで神様に退治され、心を入れ替え、めでたしめでたし。最後は迫力満点のお神輿がおなじみ「わっしょい、わっしょい」の大きな掛け声で庭を一周し、本日最高潮の盛り上がりを見せました。夏の暑さが長引く中で、秋を感じる一日となりました。皆様にたくさんのご利益がありますように。

吉富レディース



11月9日は地域で活躍されております吉富レディースの方が来園し、大勢の利用者の前で歌、踊り、体操などを披露してくださいました。

ホールに響く素敵な歌声に酔いしれ、美しい舞踊に見入ってしまいます。また、一緒に朝の連続テレビ小説「あさがきた」の主題歌で体操をし、童謡「七つの子」などを歌いました。最後は利用者とレディースの方が入り混じっての炭坑節です。

終わってからは会場のあちこちで「あなたの踊りがよかったよ」「また会いましょうね」など利用者とレディースの方の会話が聞こえ、たくさんの元気を貰った一日となりました。



吉富小学校 4年生交流会

10月24日、27日の2日間、吉富小学校の4年生との交流会がありました。

最初は歌やリコーダーでの演奏、元気いっぱいのダンスを披露してくれました。後半は小学生と利用者が一緒になってゲームをしました。風船バレーで風船を上げようと椅子から乗り出し楽しむ姿、魚釣りで大きな魚を釣ってピースする姿などがあり、会場のいたる所で歓声がありました。最後は一緒に「紅葉（もみじ）」を歌い、楽しいひと時を過ごしました。

吉富ジュニアスポーツアカデミー交流会

12月27日は吉富ジュニアスポーツアカデミーの子ども達が訪れ利用者といろいろなスポーツを楽しみました。

子ども達に「ボーリングをしませんか」「向こうで一緒にやりましょう」など誘われて、利用者はあっちへこっちへ引っ張りだこです。つい夢中になって思わず車椅子から立ち上がる利用者も居たりし職員達をはらはらさせる場面も再々ありました。皆さんたくさん動かれて、この日のご飯はいつもより美味しく感じられたのではないのでしょうか。寒さがより一層増してくる中で、体も心もぽかぽかと温まる素敵な日となりました。



RUN伴



11月3日はRUN伴（ランとも）に参加しました。RUN伴とは認知症の人と共に生きる社会を目指し、認知症の人や家族、支援者、地域住民が日本各地を少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールを目指すイベントです。

当園からは3人の代表者が三毛門のセブンイレブンから吉富フォーユー会館までを走りました。当園を含めて16人のランナーがお揃いのオレンジ色のTシャツを着てその区間を走り、50人以上の応援者に迎えられゴールテープを切りました。多くの参加者に見守られる中、無事に次の大分県へとタスキを渡すことができました。